

日本小児精神神経学会 第38回研修セミナー

いまからできる

子どものための

心理的応急処置

Psychological First Aid for Children

2025年

11月8日(土) 9:15~11:15

会場：オービックホール（大阪市）

（大阪メトロ御堂筋線「淀屋橋」駅から徒歩3分）



ふくち なる

講師：福地 成先生

東北医科薬科大学病院 精神科

公益社団法人宮城県精神保健福祉協会

みやぎ心のケアセンター

01

自然災害や事故、暴力、
突然の別れなどの出来事
が子どもに与える影響を
学びます

02

子どもたちの心の回復を
支える最初の一步、
心理的応急処置（PFA）
を学びます

03

日常の中に潜む緊急事態
への備えとなり、緊急時
に子どもたちを支える
確かな技術と視点を提供
します

本セミナーは 第134回日本小児精神神経学会（11月8～9日）に合わせて開催される企画です

参加費：本学会員は無料。非会員は事前登録2,000円、当日登録3,000円

申込：第134回日本小児精神神経学会ホームページより

お申込はこちらのQRコードから→



第134回

日本小児精神神経学会

運営事務局 株式会社 日本旅行 西日本MICE営業部

〒530-0001 大阪市北区梅田1丁目1番3 大阪駅前第3ビル3階

TEL: 06-6440-1420

E-Mail: jsppn134@nta.co.jp

大会長 石崎 優子（関西医科大学 小児科学講座 診療教授、関西医科大学総合医療センター 小児科 部長）

講師の言葉

自然災害や事故、暴力、突然の別れなど、日常の秩序を揺るがす出来事は、子どもたちの心に深い影響を及ぼす。被災した子どもたちは、自分では言葉にできない不安や混乱を抱えながら、周囲の反応に敏感に反応し、時に沈黙や興奮といったかたちでそのストレスを表す。そうした状況で、心の回復を支える最初の一步として、**心理的応急処置（Psychological First Aid: PFA）**が注目されている。PFAは、専門的な心理療法の代替ではなく、それに先立つ基礎的な支援であり、誰もが行えるかたちで設計されている。災害支援の国際的なガイドラインにも組み込まれており、WHOやユニセフ、国際赤十字などが普及を推進している。

PFAには、安全の確保、安心感の提供、基本的ニーズへの対応、つながりの促進、回復力の強化といった原則がある。これらは子どもの年齢や発達段階に応じて柔軟に適用されるべきであり、必ずしも言葉による介入だけではなく、環境の整備や大人の態度そのものも含まれる。子どもの側に立ち、無理に語らせず、そばににいるという姿勢そのものが、支援となることも少なくない。本セミナーでは、子どもを対象としたPFAの基本的な考え方と、実際の現場で求められる対応について概説する。さらに、国内外の災害支援現場における具体的な事例も紹介しながら、文化的背景や支援資源の違いが、子どものストレス反応や支援の在り方にどう影響するかを検討する。PFAは医師や心理職だけでなく、学校教員、保健師、福祉職など、子どもと関わるすべての支援者にとって有用な実践である。

本セミナーが、日常の中に潜む緊急事態への備えとなり、いざというときに子どもたちを支える確かな技術と視点を参加者に提供することを目指す。

講師プロフィール

東北医科薬科大学病院 精神科 病院准教授

公益社団法人宮城県精神保健福祉協会 みやぎ心のケアセンター センター長

2001年 弘前大学医学部卒業、青森県立中央病院小児科

2003年 医療法人社団 北海道こども心療内科氏家医院

2005年 宮城県立精神医療センター

2008年 東北福祉大学せんだんホスピタル

2012年 公益社団法人宮城県精神保健福祉協会 みやぎ心のケアセンター

2021年 東北医科薬科大学病院 精神科 病院准教授（現職）

専門は児童精神医学、災害精神保健

日本精神神経学会認定専門医・指導医、子どものこころ専門医・指導医、社会医学系専門医・指導医
著書に「被災地の子どものこころケア 東日本大震災のケースからみる支援の実際」（中央法規）など



一般社団法人

日本小児精神神経学会

Japanese Society of Pediatric Psychiatry and Neurology

企画：日本小児精神神経学会企画委員会